

はじめに……………9

序論 芸術の境界を越える美学——蓄積された伝統概念……………14

- 1 基本概念としての対極の調和……………14
- 2 受容を促進する混合主義的宗教……………28
- 3 統合された概念と個人の創造力……………34

〔I〕——内容・構造・美学

第一章 実存的儀式——黒澤明『夢』の構造と美学……………38

- 1 映画の構造とその意味……………39
  - 2 超人の結婚式と人間の葬式……………46
  - 3 清める者と汚す者としての神……………51
  - 4 幽霊——現実と虚構の化身……………54
  - 5 悪鬼と人間的な鬼の対峙……………61
- まとめ——古典の復興……………65

第二章 楓の方をめぐる狐と蛇の結晶化——黒澤明『乱』における聴覚と視覚による性格描写……………70

- 1 聴覚の局面——狐の女性への変化……………72
  - 2 視覚の局面——女性の蛇への変化……………78
- まとめ——聴覚と視覚の分離……………85

第三章 死と血の可視／不可視——黒澤明『蜘蛛巣城』と『乱』における正義観……………87

- 1 『蜘蛛巣城』——対になった殺人者とその犠牲者の死の場面……………90
  - 2 『乱』——血の可視／不可視による道德の芸術的な表現……………100
- まとめ——死と血の詩的描写……………114

第四章 征服される鬼——新藤兼人『藪の中の黒猫』の累積性と『鬼婆』の統合性……………119

- 1 『藪の中の黒猫』——複数の伝承物語……………120
  - 2 人と猫と野獣——文脈的特徴付け……………126
  - 3 伝統的空間と動き……………129
  - 4 『鬼婆』——二つの異なる伝承の独創的な統合……………136
  - 5 象徴的な自然……………143
- まとめ——鬼と人間の二面性……………149

第五章 エロティシズムの概念——伊丹十三『お葬式』と『タンポポ』における象徴性……………153

- 1 構造的 content におけるエロティシズム……………154
- 2 衣服の象徴と身体露出／非露出……………160
- 3 エロティックな象徴としての物体……………181
- まとめ——露出と隠蔽……………194

〔II〕——要因と象徴としての自然

第六章 一つの自然要素の展開……………201

- 1 人間関係を反映する小石——滝田洋二郎の『おくりびと』……………202
- 2 象徴としての植物——成瀬巳喜男の『山の音』と『夫婦』……………208

第七章 自然要素の正反対への移行——水から火への変化による熱狂の要因……………213

- 1 黒澤明の『隠し砦の三悪人』……………213
- 2 柳町光男の『火まつり』……………219

第八章 多様な自然要素による一つのテーマの展開……………227

- 1 エロティックな場面における自然要素の織り合わせ……………227
- 2 死の場面への自然要素の織り込み……………245

第九章 一つのシークエンスにおける多様な自然要素の織り合わせ……………256

- 1 物語の始まりで織り合わされた多様な自然要素——黒澤明の『乱』……………258
- 2 物語のクライマックスと結末に織り込まれる自然——『八月の狂詩曲』……………263
- おわりに——要因と象徴……………268

あとがき……………269